



紫雲児の心

12月3日に、中学校区3小学校の6年生と中学生が参加して、小中連携いじめ見逃しゼロ集会を開催しました。今年は、元きのと小学校長の佐藤新一先生を講師にお迎えしていろいろなゲームなどを行い、小中学生が入り乱れて交流を深める、楽しい活動となりました。「小学生が馴染めているのか不安だったけど、楽しそうな表情で安心した。」「始まる前は小学生とうまく話すことができるか不安だったけど、たくさん話すことができた。」など、中学生が小学生を思いやる言葉、姿がたくさんありました。

2学期の終業式から「自分自身を正當に評価する」

校長 山田 清



「本当の自分って?」ということを考えてことがありますか?自分のことなだから、自分が一番よく知っているよと思うかもしれませんが、私は「自分」には3つの側面があると思っています。

それは次の三つの自分です。一つ目は、自身が自分はこういう人だと自己評価している自分です。

- 自分が思っている自分
- 周囲の人が思っている自分
- 客観的事実に基づく自分

二つ目は、周囲の人があなたをどう見ているかという他者評価の自分です。そして三つ目は、あなたが言った言葉、あなたがした行動、あなたが残した成果といった外に現れた事実に基づいた自分です。

この三つの自分は、微妙に、または大きくずれていて、完全に一致していることはないと思っています。三つの自分がそれほどずれていなければ、トラブルは少ないと思います。でも、三つとも低い評価では悲しいこととなります。できれば三つとも評価の高い自分になりたいものです。

あなたの周囲には、「何様のつもりなんだ!」「いけすかないやつだ!」という人はいますか?おそらくそういう人は、他の二つの自分に対して自己評価を過大にしている人なのではないでしょうか。このタイプの人には、努力することをせず、人を見下したり、俺様状態で周囲を不快にさせたりします。

逆に、二つの自分に対して、自己評価が低すぎる人もいます。このタイプの人には、一見謙虚に見えます。しかし、他人から見たら明らかに今がチャンスだと思う時でも、自分には無理だと思ってチャンスを逃します。また、周囲があなたならできるはずと思うことをやらずに期待を裏切ることがあります。いつもネガティブな思考になってしまう人たちです。

もう一つ、残念なタイプの人たちもいます。それは、自分自身を見つめることのない人。つまり、自己評価をしない人です。自分を見つめることがないわけですから、自分の言動などを反省することがないタイプです。反省がないということは、同じ過ちを繰り返すということです。

自己評価において、過大評価するタイプは努力せず、過小評価するタイプは挑戦せず、評価しないタイプは反省せず、結局成長することができないと思うのです。

自分自身を正當に評価することは、実際にはかなり難しいことだとは思いますが、しかし、成長し続けるためにも、皆さんにはぜひ、自分自身を正當に評価してほしいと思います。

自己評価で

過大評価 ⇒ 努力しない

過小評価 ⇒ 挑戦しない

評価なし ⇒ 反省しない